

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	保健福祉局長寿社会対策推進室
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	年長者研修大学校 （周望学舎・穴生学舎） 北九州穴生ドーム	施設類型	目的・機能
			Ⅲ （穴生ドーム）	⑦ — ②
	所 在 地	周望学舎：北九州市小倉北区新高田二丁目 29-1 穴生学舎：北九州市八幡西区鉄竜一丁目 5-1 穴生ドーム：北九州市八幡西区鉄竜一丁目 5-2		
		設置目的	（年長者研修大学校） 年長者に対して学習やスポーツの場を提供することにより、 年長者の生きがいづくりや健康づくり及び社会活動の促進に 資する。 （穴生ドーム） スポーツ活動を通じ、年長者の健康の維持増進及び世代間 における交流を促進に資する。	
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会		
	所 在 地	北九州市戸畑区汐井町 1 番 6 号		
指定管理業務の内容		(1) 年長者研修大学校・穴生ドームの事業に関する業務 (2) 施設の運営に関する業務 (①施設・用具の提供②利用者サービス③広報) (3) 施設の管理に関する業務 (①建築物・建築設備の保守管理②施設清掃・植栽維持管理③物品等・駐車場の管理④警備・危機管理) (4) その他管理運営に関する業務 (①計画・報告②経理③地域連携④引継ぎ)		

指定期間	令和7年4月1日～令和12年3月31日
------	---------------------

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 (評価結果)
		(評価レベル：0～5)			(100点満点)
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				40	35
(1) 施設の設置目的 の達成	4	4	設置目的に沿った指定管理業務が適切に実施されている。特に、穴生ドームは、個人利用強化月間の設定等の利用促進に取組み、利用者数が要求水準を70%上回るなど評価できる。	25	20
(2) 利用者の満足度	5	5	講座の開催内容や職員の対応等について評価が高く、利用者の満足度は97%となっており、評価できる。	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				40	26
(1) 経費の低減等	4	3	経費の低減が図られた主な要因は、穴生学舎や穴生ドームの工事に伴う休校等によるものであるため、効率性の取組については市の求める水準に沿った管理運営状況である。	30	18
(2) 収入の増加	4	4	利用者が減少する時期に個人利用強化月間を設定するなど、利用者増の取組等が評価できる。	10	8
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	12

(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) の実施状況	4	3	事業報告書に記載の取組内容は、市の求める水準に沿った管理運営状況である。	10	6
(2) 平等利用、安全 対策、危機管理体制 など	4	3	事業報告書に記載の取組内容は、市の求める水準に沿った管理運営状況である。	10	6
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる (80点以上) B：やや優れていると認められる (70点以上80点未満) C：適正であると認められる (60点以上70点未満) D：努力が必要であると認められる (50点以上60点未満) E：かなりの努力が必要であると認められる (50点未満)				合 計	100
				総合評価ランク (A～E)	B

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

年長者研修大学校

- ・ニーズに合わせたコース内容の拡充や、ホームページ、SNS、マスメディア等を活用した広報活動等により、昨年度比で応募人数が12.6%、定員充足率が11.9ポイント増加するなど、着実な利用者増に結びついている。
- ・利用者の満足度については、アンケートの結果、高く評価されており、職員・講師の対応、講座等のプログラム、施設維持管理において、質の維持・向上に努めていることが伺える。
- ・新規研修生の獲得、修了後の地域活動実践者の養成という点においては、より一層の工夫と努力が求められる。

北九州穴生ドーム

- ・市民の健康・体力づくりを推進するための様々な取組を実施しており、3ヶ月の休館があったにもかかわらず、各種事業を活用し利用者数の増加につなげることができた。
- ・以前から見直しを求める声がある個人利用者の予約方法（施設窓口のみで受付）については、利用者の利便性に配慮した方法の導入に向けた取組みが求められる。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

市と指定管理者の評価レベルの相違については課題・認識を共有し、引き続き市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	73	—	—	—	—	73

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶ 1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（＋5年間）を認めるもの。

※低評価のパナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶ 最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	年長者研修大学校（周望学舎・穴生学舎） 北九州穴生ドーム
	所 在 地	周望学舎：北九州市小倉北区新高田二丁目 29-1 穴生学舎：北九州市八幡西区鉄竜一丁目 5-1 穴生ドーム：北九州市八幡西区鉄竜一丁目 5-2
指定管理者 （自己評価者）	名 称	社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会
	所 在 地	北九州市戸畑区汐井町 1-6 ウェルとばた 8 階
指定期間		令和 7 年 4 月 1 日～令和 1 2 年 3 月 3 1 日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
企業等と連携した就業促進・DX 推進 に資するカリキュラム編成事業	☑	○	
地域活動等へとつなげる目標設定・ 出口支援事業	☑	○	
SNS を活用した広報強化事業	☑	○	
市内大学と連携した講座実施事業	☑	○	
多世代を対象とした地域開放事業	☑	○	
地域貢献を促進する地域活動情報 支援センター事業	☑	○	
穴生ドーム個人利用強化月間促進 事業	☑	○	
穴生ドームを活用した健康づくり 事業	☑	○	
自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
自動販売機設置事業	☑	○	

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		
(1) 施設の設置目的の達成		評価レベル (0～5)
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。		4
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。		
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。		
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。		
[評価の理由、要因・原因分析]		
年長者研修大学校 周望学舎・穴生学舎		
①目的に沿った成果		
・高齢者の教養、健康、趣味、就業等の研修の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくり、健康づくり、社会参加を促進するとともに、ボランティア活動や地域活動を通して、地域課題の解決に向けて自ら行動のできる実践力のある人材を育成するという目的を踏まえ、「アクティブシニアの育成」を目指すため周望学舎と穴生学舎あわせて32講座（コース）を実施し研修の場の提供を行った。両学舎で、地域福祉・ボランティアに特化した講座の開設をはじめ、全講座の共通カリキュラムとして、地域福祉やボランティアに関する講座を各4単位設定し、地域活動等への理解促進を図った。また、研修生を対象とした高年齢者就業支援センターの出前講演や相談会の開催など就労促進につながる講座を開催した。		
②利用者増加の取組み		
・ホームページ、SNS、市政だよりによる広報の他、見学週間や体験入学の実施を行っている。		
・周望学舎では、ITに関する1講座、上級の実技講座を2講座、穴生学舎では、パソコン、観光、食をテーマにした3講座を新設。再編を行った結果、申込者数の増加や充足率上昇につながった。		
③施設間の有機的な連携		
・年長者研修大学校と穴生ドーム間で研修や運営方法に関する状況共有を行い、事業の質の向上や経費節減等を図っている。ホームページの共同制作や管理、広報物の共同発行や配布なども行っている。また、周望学舎のバスの共同利用のほか、穴生ドームを活用した年長者研修大学校の研修や行事の実施など、経営資源の有効活用を図っている。		
④営業・広報活動		
・年間を通して、マスメディアやSNSを活用した広報、市政だよりや北九州市社会福祉		

協議会広報紙への掲載、市民センター等への周知、地域開放事業等の実施による年長者研修大学校及び穴生ドームのPRを行っており、申込者数の増加につながった。

- ・下記のとおり要求水準（目標値）を15%以上上回っているものが2項目、要求水準を満たしているものが3項目である。

●講座数

（単位：講座）

年長大	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	各14	28	28	28	28	28
目標値	各15	32	32	28	28	28
実績	各15	32	—	—	—	—

●講座回数

（単位：回）

年長大	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	各37	各37	各37	各37	各37	各37
目標値	周望37 穴生37	周望37 穴生28	周望37 穴生23	37	37	37
実績	周望37 穴生37	周望37 穴生28	—	—	—	—

- ・仕様書では講座回数は37回以上となっているが、令和7年度穴生学舎は4・5月に工事休館、7月から9月中旬までは空調機器不調により研修を行えなかったため、講座回数を28回に変更。市了承済み。

●募集人数

（単位：人）

年長大	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050
目標値	1,052 周望536 穴生516	1,020 周望546 穴生474	1,050 周望546 穴生504	1,050	1,050	1,050
実績	1,052	1,020	—	—	—	—

- ・仕様書では募集人員は1,050名となっているが、令和7年度穴生学舎は空調機器不調により一部教室の収容人数を減員する必要があるため、30名減員して募集。市了承済み。

●応募人数

（単位：人）

年長大	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
定員	1,052	1,020	1,050	—	—	—
実績	905	1,019	—	—	—	—

倍率	0.86	0.99	—	—	—	—
----	------	------	---	---	---	---

●定員充足率※ (単位：％)

年長大	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準 (目標値)	なし	70	70	70	70	70
実績	78.1	90.0	—	—	—	—

※定員充足率 定員に対する修了生の割合で算出。

北九州穴生ドーム

①目的に沿った成果

- ・年長者研修大学校の研修生をはじめとする高齢者や市民の健康づくり、世代間交流の推進、スポーツの振興を目的とする穴生ドームフェスタやテニス教室、健康ウォーキング等の事業を実施。

②利用者増加の取組み

- ・利用者の確保に向けた「個人利用強化月間」を設定し、利用者が減少する12月～1月の利用について市内の学校の部活動や企業等のテニスクラブへ文書送付を実施。期間中の利用者増につながった。
- ・照明更新工事にともない例年に比べ開館日数が減少したが、利用者数は前年度から増加し100,000人を超えた。

③施設間の有機的な連携

- ・年長者研修大学校の記載と同様。

④営業・広報活動

- ・年長者研修大学校と併せて実施。この他、テニス利用が見込まれる団体への広報を行い、利用者増につながった。

- ・下記のとおり要求水準（目標値）を15%以上上回っている。

●利用者数 (単位：千人)

穴生ドーム	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	110	60	60	60	60	60
目標値	120	60	60	100	100	100
実績	92	102	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

(単位：人)

参考:テニス利用者数		6年度	7年度	増減
12月	個人利用	1,349	1,608	259
	専用利用	1,412	1,401	-11

	計	2,761	3,009	248
1月	個人利用	1,265	1,480	215
	専用利用	1,493	2,720	1,227
	計	2,758	4,200	1,442

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

5

[評価の理由、要因・原因分析]

年長者研修大学校 周望学舎・穴生学舎

【満足度】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
目標値	95%	95%	95%	95%	95%	95%
実績	98%	97.0%	—	—	—	—
有効回答数	575人	627人				

※ ・・・評価対象年度

①利用者の満足度

- ・アンケート記入方式による調査を行った。講座内容や職員の対応等に関する設問に対し、すべての項目で非常に良かった・良かったと回答した利用者の割合が90%を超えている。また、総合評価では、大変満足・満足が97.0%となり、目標値である95%を上回り利用者からの一定の評価を得られている。

②利用者の意見の把握、反映

- ・研修コースや施設について、各種アンケートの意見・要望等を分析し、講座の内容や研修や講師選定等の参考にするなど活用している。

③苦情に対する対応

- ・苦情や要望等に関する職員の対応についてのアンケートでは、非常に良かった・良かったとの回答が約99.3%と昨年度に引き続き非常に高く、適切な対応に努めている。

④利用者への情報提供

- ・受講前にホームルームの時間を設け、学舎からの事務連絡のほか、関係各所からの周知依頼をはじめとした研修生への情報提供を行っている。
- ・穴生学舎では、研修生向けの公式LINEを開設。学舎からの緊急連絡や研修生からの連絡受付等を行い、利便性向上と連絡にかかる経費削減を図った。

⑤その他サービス向上の取組

- ・パソコンの習得やITスキルの向上に関する講座開設の要望やアンケート結果を踏まえデジタルライフ・実用パソコンの2講座を、北九州のことをもっと詳しく知りたい

との声を受け北九州観光ナビ、食紀行の講座を開設した。また、年長者研修大学校で培った知識をさらに深めて地域活動に活かしたいという研修生の声を踏まえ、写真応用・健幸ミュージックアドバンスを開設した。

- ・近隣医療機関の協力による健康相談や、高齢者の買い物支援の一環として野菜等の移動販売などを行い、地域に開かれた学舎運営に努めた。また、食堂のない穴生学舎では、研修生のための昼食提供として、障害者作業所やキッチンカーによる飲食販売を拡充した。

北九州穴生ドーム

【満足度】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
目標値	95%	95%	95%	95%	95%	95%
実績	97%	97.3%	—	—	—	—
有効回答数	300人	295人				

※ 7・・・評価対象年度

①利用者の満足度

- ・アンケート記入方式による調査を行った。施設の利用のしやすさや職員の対応についてなど複数の設問で、大変よかった・よかったとの回答が90%を超えている。また、「大変満足」「満足」が約97.3%で昨年度に引き続き高く、目標値である95%を上回り適切なサービスの提供ができていると考えている。

②利用者の意見の把握、反映

- ・施設の設備・備品について等、アンケートでの意見・要望等を分析し、適宜対応や修繕箇所に関する市への報告を行っている。

③苦情に対する対応

- ・苦情や要望等に関する職員の対応についてのアンケートでは、非常に良かった・良かったとの回答が約99.3%と昨年度に引き続き非常に高く、適切な対応に努めている。

④利用者への情報提供

- ・例年同様、掲示板によるスケジュールの掲出、各種イベントのチラシ配架を実施するなど、利用者の情報入手にかかる利便性を向上させている。

⑤その他サービスの向上の取組み

- ・ニュースポーツの普及・啓発を図るため、地域団体等を対象に用具貸出を行っているが、利用者の声を踏まえ用具の貸出申込期間を1ヶ月前から3ヶ月前に変更し利用促進を行った。期間を変更した7年度は、91件の貸出を行った。(6年度69件)

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。

4

- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託

が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。

③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【評価の理由、要因・原因分析】

①経費節減の取組み

・講座の実施にあたり、北九州市内の医療機関や企業、行政等による出前講演等を活用し、深い学びにつながるよう専門分野の講師の積極的な登用を行った。研修生から満足度の高い評価を得ることができ、結果的に少ない経費で実施することができた。また、SNS やホームページ等の活用によるペーパーレスの推進などを行い、仕様書等に記載の要求水準や定めた目標値を最小の経費で満たすことができた。

②再委託にかかる取組み

・専門知識や技術が必要となる業務（エレベーター保守点検等）について、安全・安心を重視し専門業者へ特命随意契約とし、金額の妥当性を確認の上、再委託を行った。
・清掃及び機械管理業務については、契約期間を5年とした指名競争入札とし、事業費の削減につながった。

③経費の効果的・効率的な執行

・施設維持管理に関する入札事務の一本化など、経費の効果的・効率的な執行に努めている。
・令和7年度は計画額198,430千円に対し、実績額173,987千円で、10%以上の減となり効果的な執行ができた。

(単位：千円)

【支 出】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
事業費	計画	43,162	39,010	35,888	35,888	35,888	35,888
	実績	35,484	32,058	—	—	—	—
人件費	計画	104,711	100,450	110,000	110,000	110,000	110,000
	実績	119,583	98,514	—	—	—	—
施設維持 管理費	計画	52,612	58,970	57,007	57,007	57,007	57,007
	実績	47,100	43,415	—	—	—	—
計	計画	200,485	198,430	202,895	202,895	202,895	202,895
	実績	202,167	173,987	—	—	—	—

(単位：千円)

【うち修繕費】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
計画	3,050	4,325	4,325	4,325	4,325	4,325
実績	3,313	4,584	—	—	—	—

※ 7・・・評価対象年度

※R6 は生涯現役夢追塾を含む、R7 以降は年長者研修大学校・穴生ドームのみ。

(2) 収入の増加							評価レベル (0～5)
① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。							4
② 使用料（利用料金）収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入（例：協賛金など）を獲得できているか。							
③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。							
[評価の理由、要因・原因分析]							
・ 穴生ドームが照明更新工事のため3ヶ月休館となったため、利用料金収入は計画・実績ともに前年比では減額。単年度では計画を上回る実績となった要因は、個人利用強化月間を行ったことも一因と考えられる。							
・ 自主事業として自動販売機の設置を行った。設置にあたり、令和6年度までは手数料の一部を市へ納付したが、令和7年度からは、収益の19%相当を自主事業の収益還元として指定管理業務の一部に活用。自動販売機の設置数も5台から8台へ増やし、利用者の満足度向上と収入確保に努めた。							
・ 令和7年度は3ヶ月の穴生ドームの休館もあったが、計画を上回る収益の確保ができた。							
・ 穴生ドームの個人利用強化月間にともない、利用者が増え、利用料金収入と自主事業収益還元の合計額が、下記のとおり計画額に対し、実績額が5%以上上回っている。							
(単位：千円)							
【収 入】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
利用料金 収入	計画	10,000	8,100	10,800	11,922	11,922	11,922
	実績	11,785	8,987	—	—	—	—
指定管理 料収入	計画	190,485	190,173	190,173	190,173	190,173	190,173
	実績	190,688	190,173	—	—	—	—
その他 収入	計画	0	0	1,765	0	0	0
	実績	95	870	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	—	157	157	157	157	157
	実績	—	189	—	—	—	—
計	計画	200,485	198,430	202,895	202,252	202,252	202,252
	実績	202,568	200,219	—	—	—	—
※R6 は生涯現役夢追塾を含む、R7 以降は年長者研修大学校・穴生ドームのみ。<指定管理業務への収益還元の状況> (単位：千円)							
【実績】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
利益額		817	766	計画157	計画157	計画157	計画157
還元額		(市へ納付) 255	189	—	—	—	—

還元率	31%	24%	—	—	—	—
※ ・・・評価対象年度						
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み						
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況						評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。						4
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。						
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。						
[評価の理由、要因・原因分析]						
①人員配置						
・年長者研修大学校と北九州穴生ドームに計42名の職員配置と役割分担を行い、事業を実施している。年長者研修大学校では、人生経験豊かな高齢者をボランティア指導員として9名登用し、講座の運営及びサポートを担ってもらった。また、穴生学舎では、令和7年度からボランティア用務員2名を登用。高齢者の活躍の場を創出している。						
②職員の資質・能力向上を図る取組み						
・職員会議を活用した情報共有や、北九州市社会福祉協議会が実施した個人情報保護に関する研修受講をはじめ、職員の資質・能力向上を図った。						
③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか						
・北九州市社会福祉協議会のネットワークを活かし、研修生や修了生への地域における活動の場の提供等、地域との連携を図っている。また、職員が近隣福祉施設が主催する地域連携推進会議の構成員に就任するなど他機関との関係づくりも行っている。						
・小中学校の施設見学や職場体験、相談援助実習生の受入を行ったほか、大学祭やドームフェスタといったイベント開催時には、若者の支援機関や被災地支援団体、障害者作業所などへの出店依頼を通じ活動支援を行った。						
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など						評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。						4
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。						
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。						
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。						
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。						
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。						
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。						
[評価の理由、要因・原因分析]						

①個人情報保護対策

- ・北九州市社会福祉協議会の「個人情報保護に関する方針（プライバシーポリシー）」及び「個人情報保護規定」等に基づき、個人情報の保護に努めている。
- ・研修生や利用者に関する個人情報データは、他の書類と区別して管理し、紛失等をしていない対策を講じている。
- ・USBメモリの使用を原則禁止としているほか、研修生の個人情報についてはセキュリティ面を考慮し、クラウド上で管理を行っている。また、クラウドへのアクセスやパスワード管理は、担当者による専任制としている。

②平等利用

- ・施設の利用受付にあたっては、地方自治法及び北九州市社会福祉施設の設置及び管理に関する条例等を遵守し、利用目的を確認の上、公平・平等な取扱いを行っている。

③利用者の公平な選定

- ・年長者研修大学の受講申込、穴生ドームの利用申込について、予め明示したルールに則り、公平な利用調整を行っている。

④収支内容

- ・北九州市社会福祉協議会の「経理規程」等に基づき、収支管理を複数職員で行っている。また、利用料については、月例報告で報告を行っている。

⑤安全対策

- ・施設の老朽化が進んでいるが、職員による日常点検や不具合箇所の修繕対応を行い、利用者の安全確保に努めている。
- ・年長者研修大学では、受講者個人の身体や生活状況を事前に把握し、持病の悪化や脱水症状による体調不良や緊急時などに備えており、必要時に情報を活用し適切な対応を行った。
- ・用具、備品の管理についても適正に行った。

⑥防犯、防災対策

- ・施設内の防犯、防災対策については、必要な計画を定めると同時に、各種団体とのネットワーク、相互協定等を活用し迅速な対応が可能な体制を整備している。
- ・事案発生を防ぐため、職員による施設巡回を行っている。消防署と連携し火災等を想定した年2回の訓練を各施設で実施したほか、周望学舎では、全研修生を対象にしたシェイクアウト訓練を行った。

⑦事故発生時の対応

- ・施設利用者の怪我や持病の悪化や脱水症状による体調不良などが発生した場合に、119番通報のほか病院受診の案内、必要に応じて家族への緊急連絡等を行うなどの対応を行っている。

【総合評価】

[全体的な評価・今後の対応等]

年長者研修大学 周望学舎・穴生学舎

- ・ニーズに合わせた講座や内容の見直しを行ったところ、申込者数・充足率ともに前年比増となった。

- ・新規入学者の獲得に向けた広報と研修生の地域活動へ参加の機会を創出するための講座内容の企画・充実に努めていきたい。

北九州穴生ドーム

- ・市民の健康、体力づくりを推進するためさまざまな事業を実施し、3ヶ月の休館があったが、各種事業を活用し利用者数の増加につなげた。
- ・予約方法は以前から見直しを求める声があるため、市と協議の上、令和8年度以降に利便性の向上に向けたルール変更を行いたい。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。